

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	理科・物理基礎	講座名	物理基礎	対象年次	2
教科担任				単位数	2
教科書	物理基礎 改訂版（啓林館）				
副教材等	物理基礎学習ノート（数研出版）				

学習目標	物理で重要な所をまとめた分野である。漏れがないように、基礎の定着をはかり実力を涵養していく。また具体的な個々の現象に対して自分で考え自分で解決できるようにさせる。
------	---

月	期間	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一 回 定期 考 査	運動の表し方 運動の法則	1 2 h	運動の表し方については、速度、加速度、距離、時間のそれぞれの意味を単位から理解させる。またそのグラフが持つ意味を理解する。 運動の法則については、力は物体の変形や運動状態の変化の原因となるものであり向きと大きさをもったベクトル量であることを理解する。	単位の意味や公式の意味、ベクトルの意味を理解する。
5月 ～ 7月	第二 回 定期 考 査	仕事と力学的エネルギー	1 2 h	仕事とエネルギーは無関連ではなく、関係がある事を理解する。仕事の定義、仕事率、エネルギーの種類、エネルギー保存則を理解する。	力学的エネルギー保存則は、物体に働く力が保存力だけの時、または保存力以外の力が働いてもその力が物体に対して仕事をしないときに成立する事を理解する。
7月 ～ 10月	第三 回 定期 考 査	熱とエネルギー 波の性質	1 4 h	ブラウン運動を通じて熱運動を理解する。 物質には固体、液体、気体と3つの状態があることを理解し、いずれの状態でも熱運動があることを理解する。 熱がエネルギーの一形態ということを理解する。 波は媒質の振動が媒質中を伝わる現象であることを理解する。	のこぎりで木を切ると分子の熱運動が活発になるということを視覚的にとらえさせ、熱がエネルギーの一形態であることを理解する。
10月 ～ 12月	第四 回 定期 考 査	音 電 気	1 4 h	空間を伝わる音波は空気を媒質とする縦波であり真空中では音は伝わらないことを理解する。 学習状況に応じ音の屈折・音の回折・音の干渉を扱う。 静電気、電流の向きと大きさ、抵抗、直列、並列回路、仕事（電力量）、仕事率（電力）を理解する。	物体が帯電する仕組みでは帯電は電子の過不足から生じ電気現象は電子が主役であることを理解する。
12月 ～ 3月	第五 回 定期 考 査	物理学と社会	1 8 h	エネルギーには力学的エネルギーや熱エネルギー、電気エネルギーのほかにもあることを理解する。たとえば光エネルギー、化学エネルギー、核エネルギーなどでそれぞれの意味も理解する。	エネルギーが社会にどのように利用されているのかを理解する。
評価の観点・方法		定期考査の結果を中心とする。あわせて小テストの成績、課題提出、出席率、取り組み姿勢なども総合的に加味する。			

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	理科・物理演習 1	講座名	物理演習 1	対象年次	2
教科担任				単位数	2
教科書	物理基礎 改訂版（啓林館）				
副教材等	センサー総合物理（啓林館）				

学習目標	物理基礎に於ける問題演習を行う他に、物理の内容を先取りして学習する。物理的な事象・現象を観察や実験を通して学び、自然の中に潜む基本的な概念や原理、法則についての理解を深める事はもちろん、更に深い理論的な見方や考え方を身に付けることを目標とする。
------	--

月	期間	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	電気力と運動	12h	電気の分野のうち、オームの法則、抵抗の接続、キルヒホッフの法則、消費電力、測定器の学習をしていく。 力と運動では、物体(車やボール)の運動について学習する。速さ、等速直線運動、速度、合成速度、相対速度、加速度、等加速度直線運動の演習、数式などを用いた発展的な内容を理解する。	・電気の基本であるオームの法則、電力とエネルギーの概念などを学習する。 ・運動の様子を表すグラフが正確に読めること、書けることが理解を深める。
5月 ～ 7月	第二回定期考査	物体の運動力運動の法則	12h	平面内の運動として、落体の運動、放物運動を学習。その後、カベクトルの合成・分解、色々な力(重力、垂直抗力、張力、弾性力、摩擦力など)、力のつり合い、運動の3法則に関する演習を行う。力のモーメント、運動量の保存についても理解を深める。	・運動方程式をたてて問題を解く手順を習得する。様々な力が働く発展的な問題を解くことで学んだ知識を定着させることが重要である。
7月 ～ 10月	第三回定期考査	仕事と力学的エネルギー熱とエネルギー	14h	仕事と力学的エネルギーでは、仕事とは何かを抑えてから、仕事の原理、仕事率、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー保存の法則の演習。熱とエネルギーでは、温度、熱量、熱容量の学習・演習。気体の法則、気体分子運動、気体の状態変化についても理解を深める。	・力学的エネルギー保存則、エネルギーの変換の概念が重要。 ・気体分子運動論全般についての総合力を演習。
10月 ～ 12月	第四回定期考査	波・音	14h	波の基本的な性質を学習する。波の伝わり方、正弦波、位相、横波と縦波、重ね合わせの原理、定常波、反射、屈折、回折、干渉などの演習。音波としてドップラー効果、共鳴、更に弦の振動について発展的な学習を行う。	・「波」は容易に理解できる現象ではない。波の基本的な性質に基づいて学習し、波動についての理解を深める。
12月 ～ 3月	第五回定期考査	光・電気	18h	光の伝わり方、光の性質について学習する。光の反射、屈折、全反射、分散、レンズとその像、光の干渉と回折の学習・演習を行う。また、数式を用いた発展的な内容も学習する。 電気では、静電気、電場、電位、コンデンサーを学習する。	・光の性質の基本を演示実験などを中心に学習、演習。静電気の現象は非日常的な部分もある。演示中心に理解を促したい。
評価の観点・方法		物理的な現象に対する興味・関心を高めているか、授業やグループでの実験に積極的に参加しているか、実験において科学的な考え方・工夫をして取り組んでいるか、学習した基本概念や原理・法則が正しく理解できているか、科学的・論理的に考えているかなどについて、提出物の提出状況や内容、定期考査の成績、出席状況などをもとに、総合的に評価する。			

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	理科・物理	講座名	物理	対象年次	3
教科担任				単位数	5(4)
教科書	物理(啓林館)				
副教材等	セミナー物理(第一学習社)				

学習目標	物理基礎で身につけた、物理的な現象についての基本的概念や原理・法則をもとに、熱とエネルギー、円運動と万有引力、電流と磁場、電磁誘導と電磁波、電子と光、原子と原子核について学習し、さらに知識の定着を計るために演習も行う。
------	---

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月	第一回定期考査	熱力学第一法則 波動 ドップラー効果	30h	<ul style="list-style-type: none"> ・熱力学第一法則 ・波の性質 ・波の干渉・回折・反射・屈折 ・音波 ・ドップラー効果 	<ul style="list-style-type: none"> ・気体に与えられた熱量がどのように使われているのか理解する。 ・波動による4つの現象について理解する。
5月					
5月	第二回定期考査	光波 電場	30h	<ul style="list-style-type: none"> ・光 ・静電気 ・電場 ・電位 	<ul style="list-style-type: none"> ・光波による現象を理解する。 ・静電場の特徴を学習し電場の概念を理解する。
7月					
7月	第三回定期考査	電流と磁場 電磁誘導と電磁波	30h	<ul style="list-style-type: none"> ・コンデンサー ・電流と磁場 ・ローレンツ力 ・電磁誘導 	<ul style="list-style-type: none"> 静電場の特徴を学習し、コンデンサーの原理・応用まで理解する。電流と磁場との相互作用を理解する。
10月					
10月	第四回定期考査	電磁誘導と電磁波 原子と原子核 入試演習	35h	<ul style="list-style-type: none"> ・交流 ・自己誘導 ・相互誘導 ・交流の発生 ・交流の性質 	<ul style="list-style-type: none"> 実験を通して電磁誘導から交流の概念を理解する。問題演習を丁寧に行うことが重要。
12月					
12月	第五回定期考査	総合問題 入試問題	45h	力学、熱力学、波動、電気、原子の分野を総合的に理解し、解答できる力を養う。一通りの学習を終えた段階で勘違いしている部分や不足している部分などを個人レベルで洗い出し、指導を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 物理量の意味を理解しながら総合的な概念の形成を促すような指導が必要
3月					

評価の観点・方法	物理現象に対する興味・関心を高めているか。授業に積極的に参加しているか。実験において科学的な考え方・工夫をしているか。学習した基本概念・原理・法則を正しく理解し、科学的・論理的に考えているか。これらについて、定期考査の結果、提出物の提出状況や内容、出席状況等により総合的に判断し、評価する。
----------	---

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	理科・物理演習 2β	講座名	物理演習 2β	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	物理 改訂版 (啓林館)				
副教材等	セミナー物理 (第一学習社)				

学習目標	2年次までに学習した内容を、問題演習を通じて総合的に理解させる。また、大学入学共通テスト及び2次試験、私大入試に十分対応できる力を養う。さらに、必要に応じて物理(5単位)の進行に合わせた演習も行う。
------	---

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	力と運動 熱と気体	14h	平面内の運動 剛体 運動量保存 円運動と万有引力 気体のエネルギーと状態変化	物理基礎で学んでいない剛体、円運動と万有引力を重点的に理解する。
5月 ～ 7月	第二回定期考査	波	14h	波の伝わり方 音の伝わり方 光	正弦波と単振動の関係、波面と反射、屈折、回折の関係、ドップラー効果、ヤングの実験、ニュートンリングを重点的に理解する。
7月 ～ 10月	第三回定期考査	電気と磁気	16h	電場 電流 電流と磁場 電磁誘導と電磁波	物理基礎で学んでいないコンデンサー、半導体、電磁誘導、自己誘導、相互誘導などを重点的に理解する。
10月 ～ 12月	第四回定期考査	原子 入試問題研究	16h	原子と光 原子と原子核 大学入学共通テスト過去問 類題演習	物理特有の分野である。すべての範囲を丁寧に理解する。
12月 ～ 3月	第五回定期考査	入試問題研究	18h	大学入学共通テスト過去問 類題演習	本番を想定した演習を行い、当日に実力を発揮できるようにする。
評価の観点・方法		問題演習を通じて物理を体系的に理解できているかを、定期考査、授業態度、課題提出などで総合的に判断する。			

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	理科・化学演習 1	講座名	化学演習 1	対象年次	2
教科担任				単位数	2
教科書	化学 新訂版 (実教出版)				
副教材等	セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)、フォローアップドリル化学基礎・化学 (数研出版)				

学習目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てる。また、化学基礎での学習事項について基礎基本の一層の定着を図り、基本的な内容についての応用問題・大学入試問題を解く力を養う。
------	--

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	物質の構成 物質の変化 状態変化	1 2 h	物質の成分 物質の構成粒子 化学式量と物質質量 溶液の濃度 化学の基本法則 化学反応式 物質の三態	化学基礎で学んだ結合が融点・沸点と大きく関係することから、既学習事項の定着が発展的な学習に欠かせないことに気づかせる。 グラフの読み取りや理解の仕方を学ばせる。
5月 ～ 7月	第二回定期考査	気体の性質 固体の構造 溶液	1 4 h	気体の性質 結晶の構造 溶解、溶解度	グラフの読み取りや理解の仕方を学ばせる。 公式を覚えて使うだけでなく、その公式が導かれる要因を理解させる。
7月 ～ 10月	第三回定期考査	溶液 物質の状態	1 4 h	希薄溶液の性質 コロイドの性質	グラフの読み取りや計算だけでなく、結合等も含めその物質のものものの性質についても考えさせる
10月 ～ 12月	第四回定期考査	化学反応と熱 化学反応と電気エネルギー	1 4 h	化学反応と熱エネルギー ヘスの法則 電池 電気分解	物質のもつエネルギーの変化に注目し、化学変化とエネルギーの関係を理解させる。 電気エネルギーの変換を数値的に考えられるようにする。
12月 ～ 3月	第五回定期考査	反応の速さとしき くみ 化学平衡	1 8 h	反応の速さ 反応速度を変える条件 可逆反応と化学平衡 化学平衡の移動 電解質水溶液の平衡	様々な物質に関する平衡を扱うことで、化学基礎で学習した「物質の変化」の確認・復習を行わせる。

評価の観点 ・方法	<ul style="list-style-type: none"> 理科は実験・実習教科であるので、実験観察への取り組む姿勢及び実験後のレポートを評価の観点の1つとする。 定期考査、授業態度、実験観察への取り組む姿勢、及び実験レポート、以上の点から総合的に評価する。
--------------	--

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	理科・化学演習 2 α	講座名	化学演習 2 α	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	化学基礎（実教出版）				
副教材等	ビーライン化学基礎（第一学習）				

学習目標	2年次までの学習内容をさらに深め、計算力のアップをはかるとともに、問題演習を通じて、センター試験に対応できる学力を養う。
------	--

考査	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一 回 定期 考査	物質の構成	12 h	単体と化合物、化学の基本法則 状態変化、原子の構造、同位体 物質質量、原子の電子配置 周期律、周期表 化学結合、化学反応式 化学反応における量的関係	化学基礎の復習が中心となるが、より実践的な知識を定着させる
5月 ～ 7月	第二 回 定期 考査	物質の変化	12 h	酸・塩基の定義、酸性・塩基性 酸・塩基の分類 水素イオン濃度、pH 中和反応、塩、中和滴定	基本になる分野であるので、特に丁寧に解説する。 多くの問題パターンに慣れさせる。
7月 ～ 10月	第三 回 定期 考査	物質の変化	14 h	酸化還元の定義 酸化還元反応 金属のイオン化傾向 電池 電気分解	酸化還元と電子の出入り、酸化剤・還元剤の働きを酸化数で考え、解答できるようになる。 多くの問題パターンに慣れさせる。
10月 ～ 12月	第四 回 定期 考査	入試問題研究	14 h	共通テストの予想問等を使って、問題演習を行う。	化学基礎1年目なので発展的問題にも対応できるように、多くの問題演習を行う
12月 ～ 3月	第4 回 以降	入試問題研究	18 h	共通テストの予想問等を使って、問題演習を行う。 受験対策について個別に指導する。	限られた時間の中で、力を充分出し切れるようになるまで学習する。

評価の観点・方法	観点 方法	問題演習を通して、物質の性質を系統的に考え、物質の変化を理論的に捉える。 定期試験、宿題チェック、小テスト等をとおして総合的に評価する。
----------	----------	---

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	理科・化学演習2β	講座名	化学演習2β	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	化学基礎（実教出版）、化学（実教出版）				
副教材等	セミナー 化学基礎+化学（第一学習社）、チェック&演習化学（数研出版）				

学習目標	化学的な事象・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てる。また、化学基礎での学習事項について基礎基本の一層の定着を図り、基本的な内容についての応用問題・大学入試問題を解く力を養う。
------	--

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	物質の構成 物質の変化	12h	物質の成分 物質の構成粒子 化学式量と物質質量 溶液の濃度 化学の基本法則 化学反応式 酸と塩基	化学基礎で学んだ結合が融点・沸点と大きく関係することから、既学習事項の定着が発展的な学習に欠かせないことに気づかせる。 グラフの読み取りや理解の仕方を学ばせる。
5月 ～ 7月	第二回定期考査	物質の変化 物質の状態	12h	酸化還元 状態変化 気体の性質 固体の構造	公式を覚えて使うだけでなく、その公式が導かれる要因を理解させる。 構造を覚えるだけでなく、数学の知識を理科にいかせるようにする。
7月 ～ 10月	第三回定期考査	物質の状態 物質の変化 無機物質	14h	溶液 反応熱 反応の速さ 化学平衡 非金属とその化合物	公式を覚えて使うだけでなく、その公式が導かれる要因を理解させる。様々な物質に関する平衡を扱うことで、化学で学習した「物質の変化」の確認・復習を行わせる。
10月 ～ 12月	第四回定期考査	無機物質 有機化合物 総合問題	14h	金属元素とその化合物 有機化合物の特徴と炭化水素 アルコールと関連化合物 芳香族化合物 総合演習・センター試験対策	実践的な問題の解法に焦点を当て演習を行う。
12月 ～ 3月	第四回以降	総合問題	18h	総合演習 国立二次試験対策	実践的な問題の解法に焦点を当て演習を行う。
評価の観点・方法	観点方法	問題演習を通して、物質の性質を系統的に考え、物質の変化を理論的に捉える。定期試験、宿題チェック、小テスト等をとおして総合的に評価する。			

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	理科・生物演習1	講座名	生物演習1	対象年次	2
教科担任				単位数	2
教科書	改訂版 生物 (数研出版)				
副教材等	九訂版スクエア最新図説生物neo (第一学習社)、三訂版リードLightノート生物 (数研出版)				

学習目標	1年次で学習した生物基礎の内容をふまえ、より高度に自然界のしくみや生物への関心を高め、生物学の概念や原理・法則を理解する学習活動を通して、目的意識を持って活動する能力と科学的な見方や考え方をさらに伸張させる。
------	--

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 }	第一回定期考査	生物の系統	12h	生物の分類と系統 植物	地球に生きる生物の多様性とその関係性について学び、生物について幅広く知ることを重視する。
5月 }	第二回定期考査	生物の系統	12h	原生生物 原核生物 菌類	生物の分類のしかたについての基本的な知識を身につけ、生物の大まかな分類ができるようになる。
7月 }	第三回定期考査	生物の進化	14h	生命の起源 生物の変遷	現在地球上にみられる多種多様な生物が、誕生後、どのような変遷をたどったか学習する。
10月 }	第四回定期考査	生物の進化 生物群集と生態系	14h	進化のしくみ 個体群 個体群内の個体間の関係	生物の形質が世代を経るにつれて変化していく進化のしくみについて学習する。
12月 }	第五回定期考査	生物群集と生態系	18h	異種個体間の関係 生物群集 生態系における物質生産 生態系と生物多様性	生物の個体数に変動したり安定したりするしくみを、種内や種間での関係、および環境の影響に着目し学習する。

評価の観点・方法	定期考査の得点と実験観察に取り組む姿勢、小テスト、提出物などを総合的に評価する。
----------	--

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	理科・生物	講座名	生物	対象年次	3
教科担任				単位数	5(4)
教科書	改訂版 生物 (数研出版)				
副教材等	六訂版リードα 生物基礎+生物 (数研出版)、八訂版スクエア最新図説生物neo (第一学習社) 三訂版リードLightノート生物 (数研出版)				

学習目標	生物基礎で身につけた知識や技能をもとに、自然に対する興味・関心をさらに高め、生物学的に探究する能力や態度を養い、生物に関する現象を理解する。大学受験に対応できる十分な学力を身につけるため演習を行い、大学入試問題にも挑戦する。
------	--

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月	第一回定期考査	生命現象と物質	30h (24)	生体の構成—個体・細胞・分子 タンパク質の構造と性質 酵素のはたらき 細胞の構造とはたらき 細胞の活動とタンパク質 代謝とエネルギー 呼吸と発酵 光合成 窒素同化	生命現象を支える物質についてタンパク質を中心に細胞のはたらきと関連づけて学ぶ。呼吸、光合成におけるエネルギー変換のしくみと窒素同化の概要について学ぶ。
5月				5月	生命現象と物質 生殖と発生
7月	第三回定期考査	生物の環境応答	35h (28)	ニューロンとその興奮 刺激の受容 情報の統合 刺激への反応 動物の行動 植物の反応 成長の調節 花芽形成と発芽の調節	
10月				第四回定期考査	総合問題演習
12月	第五回定期考査	入試問題演習	45h (36)		
3月					

評価の観点・方法	定期考査の得点と実験観察に取り組む姿勢、小テスト、提出物などを総合的に評価する。
----------	--

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	理科・生物演習 2 α	講座名	生物演習 2 α	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	改訂版 生物基礎 (数研出版)				
副教材等	進研WINSTEP 生物基礎 改訂版 (ラーンズ)、スクエア最新図説生物neo (第一学習社)				

学習目標	生物基礎の基本的な知識や原理・法則の理解を深め、センター試験に特徴的な出題形式を中心に問題演習を行い、個々の進路実現につながる問題に対応できる応用力を身につける。
------	---

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 }	第一 回定期 考査	生物の特徴 遺伝子とそのは たらき	12h	生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質合成	生物の特徴や遺伝子と そのはたらきについて 基本的な知識や概念を 確認し、基本的な問題を 解けるようにする。
5月 }	第二 回定期 考査	生物の体内環境 の維持	12h	体内環境 体内環境の調節 免疫	体内環境や調節方法、免 疫について基本的な知 識や概念を確認し、基本 的な問題を解けるよう にする。
7月 }	第三 回定期 考査	生物の多様性と 生態系	14h	植生の多様性と分布 気候とバイオーム 生態系とその保全	生物の多様性や生態系 について基本的な知識 や概念を確認し、基本的 な問題を解けるように する。
10月 }	第四 回定期 考査	共通テスト問題 演習	14h	共通テスト試験対策実践問題演習	共通テストの問題形式 に慣れると同時に、不足 している知識や概念を 確認し、補う。
12月 }	第五 回定期 考査	大学入試問題演 習	18h	大学入試対策問題演習	生徒の希望進路に沿っ た問題演習を行い、関連 事項の再確認、強化を図 る。

評価の観点 ・方法	テスト等の得点と実験観察に取り組む姿勢、提出物などを総合的に評価する。
--------------	-------------------------------------

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	理科・生物演習2β	講座名	生物演習2β	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	改訂版 生物(数研出版)、改訂版 生物基礎(数研出版)				
副教材等	大森徹の生物 計算・グラフ問題の解法(旺文社)、スクエア最新図説生物neo(第一学習社)				

学習目標	生物・生物基礎の基本的な知識や原理・法則の理解を深め、大学入試に特徴的な出題形式を中心に問題演習を行い、個々の進路実現につながる問題に対応できる応用力を身につける。
------	--

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 5月	第一回定期考査	顕微鏡の基本操作 細胞と分子 代謝	8h	マイクロメーターの測定 浸透圧の計算 浸透圧・膨圧のグラフ 選択透過性のグラフ 酵素のグラフ	顕微鏡の基本操作・細胞と分子・代謝について基本的な知識や概念を確認し、基本的な問題を解けるようにする。
5月 7月	第二回定期考査	代謝 生物の体内環境	10h	呼吸の計算 呼吸商の計算 光合成の限定要因のグラフ 見かけの光合成のグラフと計算 カルビン・ベンソン回路のグラフ 尿生成の計算 尿生成のグラフ 免疫のグラフ 抗体産生	代謝・生物の体内環境について基本的な知識や概念を確認し、基本的な問題を解けるようにする。
7月 10月	第三回定期考査	生物の体内環境 遺伝情報の発現	12h	酸素解離曲線 浸透圧調節のグラフ 体温調節のグラフ DNAの塩基の割合の計算 DNAの長さの計算 DNA量のグラフ DNAの複製の計算 チミジン取り込み実験 DNAの複製の少し詳しいしくみ PCR法 配偶子の種類の計算	生物の体内環境・遺伝情報の発現について基本的な知識や概念を確認し、基本的な問題を解けるようにする。
10月 12月	第四回定期考査	遺伝情報の発現 動物の反応と行動 生物群集と生態系	14h	遺伝暗号の推定 遺伝子の数の計算 制限酵素の計算 興奮の伝導のグラフ 興奮伝導速度の計算 筋収縮の張力のグラフ 筋収縮のエネルギー源の計算 個体群に関するグラフ 生存曲線 標識再補法 生産構造図 生態系物質収支の計算 自然浄化	遺伝情報の発現・動物の反応と行動・生物群集と生態系について基本的な知識や概念を確認し、基本的な問題を解けるようにする。
12月 3月	第五回定期考査	生命の起源と進化 生物の系統 大学入試問題演習	4h	分子時計の計算 集団遺伝の計算 大学入試対策問題演習	生徒の希望進路に沿った問題演習を行い、関連事項の再確認、強化を図る。

評価の観点・方法	テスト等の得点と実験観察に取り組む姿勢、提出物などを総合的に評価する。
----------	-------------------------------------